

第Ⅱ部 調査結果の概要

第9章 今後の家庭生活

1 はじめに

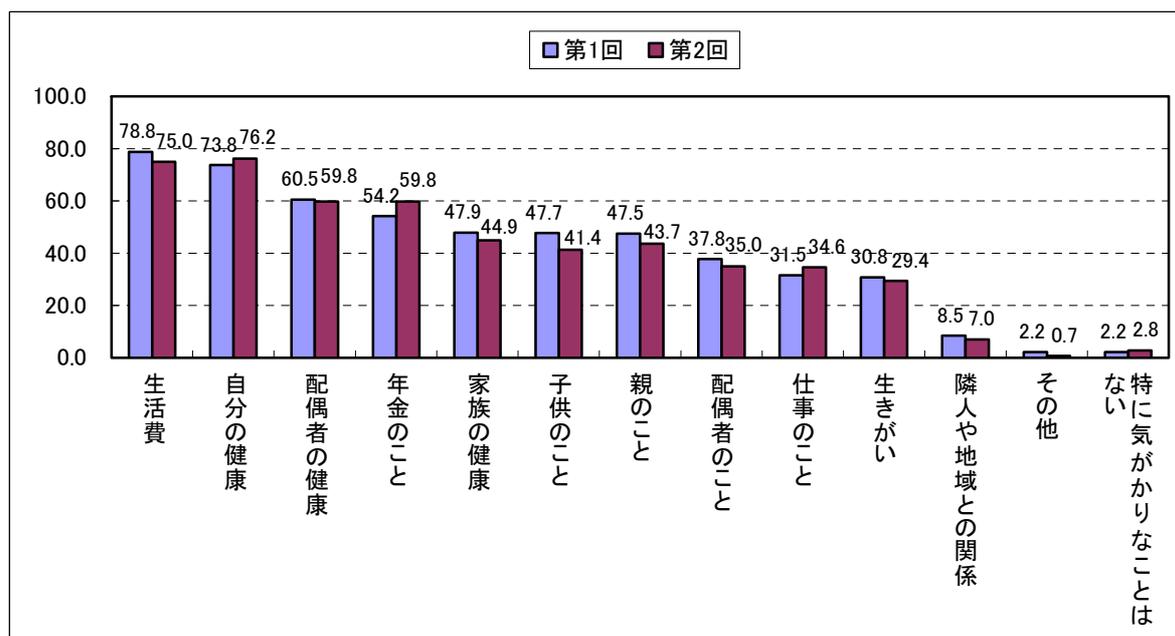
この章では、60歳以降の家庭生活について、回答者はどのような見通しをもっているのかという点について調査結果を概観していく。当然のことながら、以下で取り上げる設問はいずれも現実には起きたことではないので、「現段階では・・・しようと考えている」という範囲を出ない。

しかし、60歳以降の生活についてどのようなイメージを持ち、実現可能性がどれだけ高いのか、実現するためには何が必要かは人生設計を立てる上で重要なポイントとなる。また、どれだけ具体的なイメージを持っているかは回答者の年齢によっても異なっているだろう。回答者が50歳代後半であれば、それほど遠くない将来のことであるので、より具体的なイメージを持っているであろう。しかし、40歳代前半であれば、60歳以降の生活は20年近く先のこととして具体的なイメージは持っていないか、持っていたとしてもかなり漠然としたものだろう。こうした点について念頭に置きつつ、回答結果を概観することにする。

2 60歳以降の生活で気がかりなこと

まず、60歳以降の生活で気がかりなことを複数回答で答えてもらった。回答結果を見ると、「自分の健康」「生活費」「年金のこと」「配偶者の健康」といった順になっている（第9-1図）。

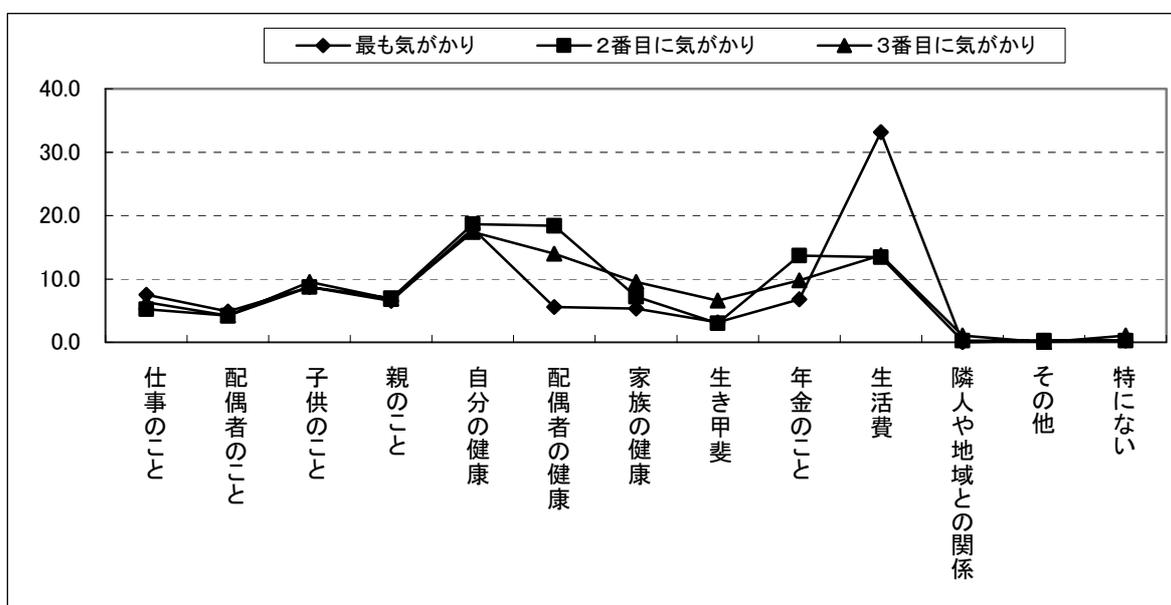
第9-1図 60歳以降の生活で気がかりなこと



前回調査と今回調査の結果を比較すると、全体的な回答傾向に大きな違いはない。ただ、年金について気がかりという回答者が前回調査に比べて5ポイントほど増加している。これは、調査時に国民年金未納問題が話題となっていたことが影響していると思われる。また、子供のことが気がかりという回答が6ポイント減少している。その理由について検討してみたが、この要因はわからなかった。

さらに、上記の項目のなかから最も気がかりなもの、2番目に気がかりなもの、3番目に気がかりなものをそれぞれ1つ挙げてもらった。第9-2図はその結果である。これを見ると、1番目、2番目、3番目いずれの順位でも生活費、自分および配偶者の健康があげられている。

第9-2図 1~3位の気がかりなこと（第2回調査）



3 60歳以降のライフプラン

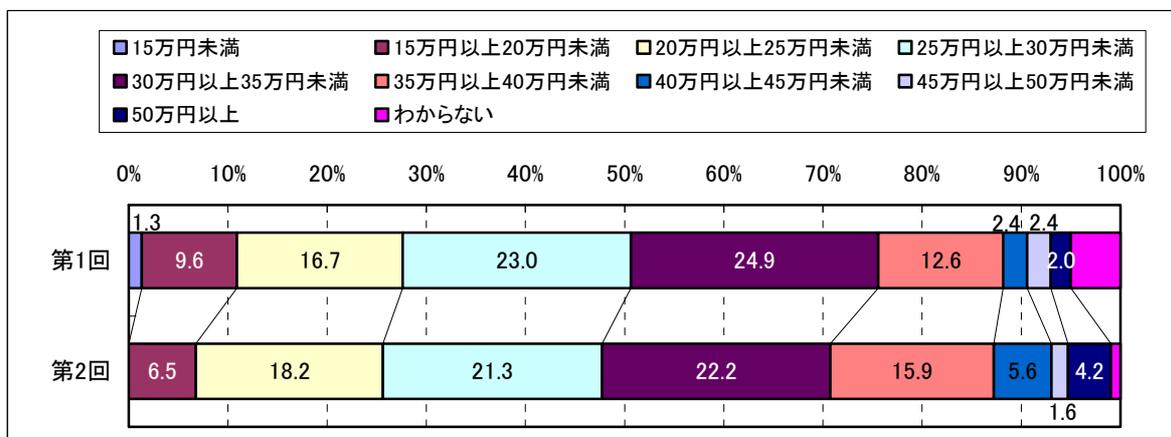
3.1 生活資金

60歳以降の生活について気がかりなこととして、「生活費」を挙げる回答者が多かった。それでは、60歳以降の生活をおくるためにどれくらいの金額が必要だと考えているのであろうか¹。第9-3図はその結果である。

これを見ると、「25万円以上30万円未満」、「30万円以上35万円未満」が多く、以下、「20万円以上25万円未満」「35万円以上40万円未満」が続いている。

¹ もちろん、家族構成、住居形態、居住地域、家計の収入、収入生活水準等がわからなければ正確に回答できないだろうが、ここでは単純に生活費の予想額として回答してもらった。

第9-3図 60歳以降の生活に必要な費用



第9-1表 60歳以降の1ヵ月の生活に必要な費用の変化

		60歳以降の1ヵ月の生活費 (第2回調査)										合計
		15万円未満	15万円以上20万円未満	20万円以上25万円未満	25万円以上30万円未満	30万円以上35万円未満	35万円以上40万円未満	40万円以上45万円未満	45万円以上50万円未満	50万円以上	わからない	
60歳以降の1ヵ月の生活費 (第1回調査)	15万円未満	2	1	1	0	0	0	0	0	2	0	6
	15万円以上20万円未満	2	12	16	7	3	1	0	0	0	0	41
	20万円以上25万円未満	1	6	27	20	11	4	2	1	0	0	72
	25万円以上30万円未満	1	3	23	30	22	11	5	0	0	5	100
	30万円以上35万円未満	1	3	6	24	31	21	4	3	2	3	98
	35万円以上40万円未満	0	1	2	4	12	22	7	0	1	1	50
	40万円以上45万円未満	0	0	0	0	5	2	1	0	1	0	9
	45万円以上50万円未満	0	1	0	2	3	2	3	0	1	0	12
	50万円以上	0	0	1	0	0	1	1	3	1	0	7
	わからない	0	1	1	3	5	2	0	0	0	8	20
	合計	7	28	77	90	92	66	23	7	8	17	415
	1.7%	6.7%	18.6%	21.7%	22.2%	15.9%	5.5%	1.7%	1.9%	4.1%	100.0%	

なお、参考までに、60歳以降の生活で1ヵ月に必要な生活費の回答結果を、前回調査と今回調査について集計したのが第9-1表である。「わからない」という回答を除くと、前回調査の費用に比べて今回調査の費用が多かった回答者が113名(29.3%)、不変であった回答者が126名(32.6%)、減少した回答者が147名(38.1%)という結果であった。

3. 2 生活資金の確保

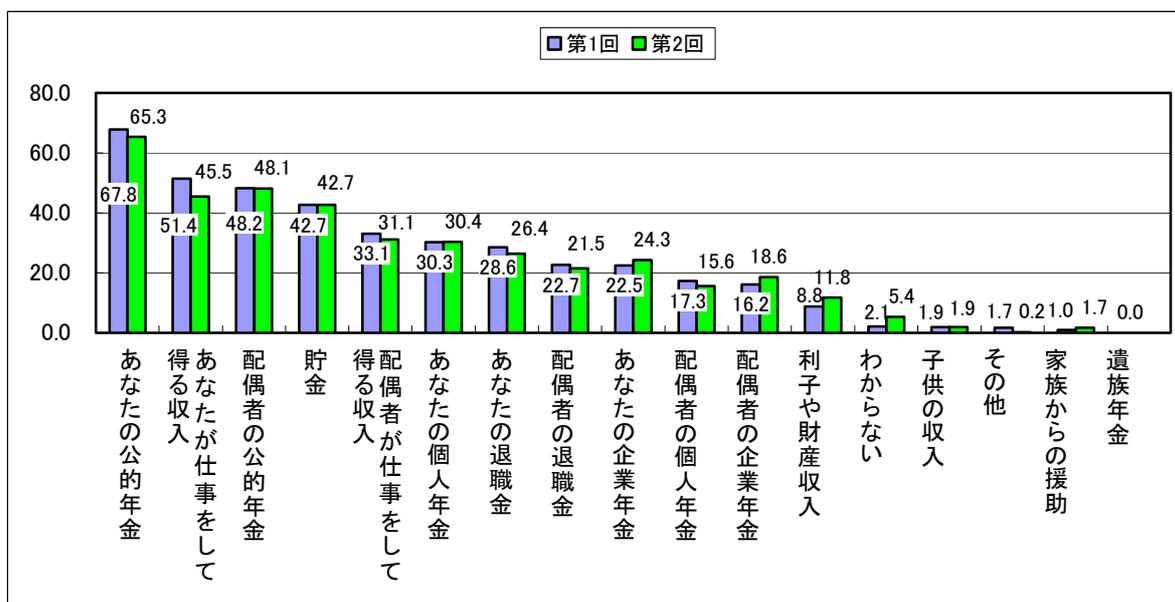
では、その費用をどのようにして得る予定なのか、複数回答で答えてもらった(第9-4

図)。

回答結果で最も多かったのは「回答者自身の公的年金」、以下、「回答者自身が仕事をして得る収入」、「配偶者の公的年金」、「貯金（の取り崩し）」等となっている。

第1回調査と第2回調査を比較すると、今回の調査では「回答者自身が仕事をして得る収入」が6ポイントほど低下しているが、それ以外の項目については、大幅な増減があった項目はない。

第9-4図 60歳以降の生活のまかない方



3. 3 現在の蓄え

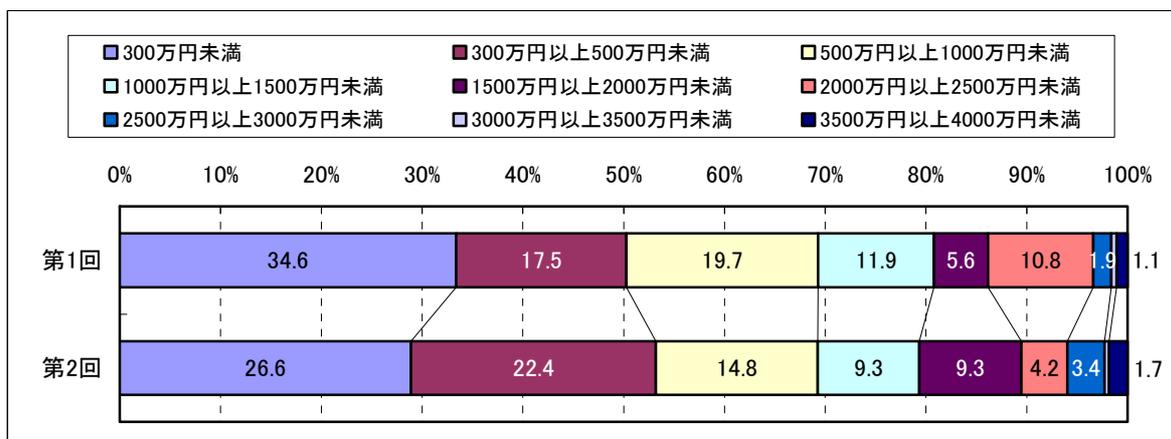
60歳以降の生活を支える糧の一つとして「貯金」が挙げられている。では、現在どれだけの蓄えがあるのだろうか（第9-5図）²。

この結果を見ると、「300万円未満」という回答が26.6%と最も多く、以下、「300万円以上500万円未満」「500万円以上1000万円未満」などの順になっている。

前回の調査と今回の調査で蓄えの金額の差が大きいケースが見られる（第9-2表）。この1年間に仕事を辞め、その退職金を預金したり、住宅の購入等によって預金額が減少したりすることも考えられる。しかし、過去1年間の出来事の集計結果を考慮しても説明できないケースが多い。

² 第1回調査と第2回調査とでは質問様式に変更がある。第1回調査においてこの質問は本人だけに回答してもらっている。これに対して、第2回調査では本人と配偶者両方に回答してもらっている。ここでは両方のデータを揃えるために本人の回答結果だけを利用した。

第9-5図 現在の蓄えの金額



第9-2表 現在の蓄えについての第1回調査と第2回調査の変化

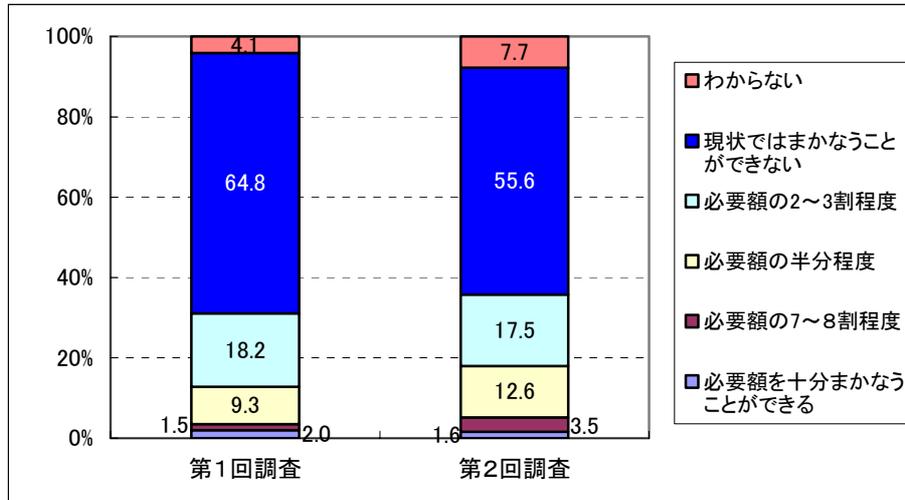
			第2回調査の蓄えの額											合計		
			300万円未満	300万円以上500万円未満	500万円以上1000万円未満	1000万円以上1500万円未満	1500万円以上2000万円未満	2000万円以上2500万円未満	2500万円以上3000万円未満	3000万円以上3500万円未満	3500万円以上4000万円未満	4000万円以上4500万円未満	4500万円以上5000万円未満		5000万円以上	
第1回調査での蓄えの額	300万円未満	度数 53 行% 67.9%	18 23.1%	5 6.4%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	78 100.0%
	300万円以上500万円未満	7 8.8%	16 20.0%	10 12.7%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	35 100.0%
	500万円以上1000万円未満	2 2.6%	14 17.7%	15 19.2%	8 10.3%	3 3.8%	1 1.3%	3 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	48 100.0%	
	1000万円以上1500万円未満	0 0.0%	2 2.6%	4 5.1%	9 11.5%	9 11.5%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	27 100.0%	
	1500万円以上2000万円未満	0 0.0%	2 2.6%	0 0.0%	2 2.6%	3 3.8%	3 3.8%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	12 100.0%		
	2000万円以上2500万円未満	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	1 1.3%	3 3.8%	3 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%		
	2500万円以上3000万円未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%		
	3000万円以上3500万円未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%		
	3500万円以上4000万円未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	3 100.0%		
	4000万円以上4500万円未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%		
	4500万円以上5000万円未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	4 100.0%		
	5000万円以上	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	0 0.0%	4 5.1%	6 100.0%		
	合計	度数 62 行% 27.0%	53 23.0%	35 15.2%	22 9.6%	22 9.6%	9 3.9%	8 3.5%	1 0.4%	4 1.7%	5 2.2%	0 0.0%	9 3.9%	230 100.0%		

仮に、現状の蓄えに関する回答が正しいとして、回答者はその金額で60歳以降の生活をまかなうのに十分だと思っているのだろうか、それとも不足していると思っているのだろうか。第9-6図はその結果である。この図を見ると、「現状ではまかなうことができない」、「必要額の2~3割」という回答が7~8割に達する。それに対して、60歳以降の生活に必要な額を十分まかなうことができるという回答者はごくわずかである³。

では、どれだけの蓄えがあれば60歳以降の生活に必要な額を十分まかなうことができると考えているのであろうか。もちろん、家族構成、ローンの有無、どの程度の生活水準をおくろうとしているかなど様々な要因によって異なると思われるが、ここでは傾向だけを把握

³ 現在の蓄えがいくらあれば60歳以降の生活を賄うことができるかは、必要な生活費の金額と同様、家族構成、住居形態、居住地域、生活水準等によって異なっていると思われる。

第9-6図 60歳以降の暮らしを賄うだけの金額か



第9-3表 現在の貯金額と60歳以降の暮らしを賄えるかどうかの関係（パネル）

		老後の暮らしを賄うのに十分か					合計	
		必要な額を十分賄うことができる	必要と思われる額の7~8割	必要と思われる額の半分	必要と思われる額の2~3割	現状では賄うことができない		わからない
預金や 有価証券等の 蓄え	300万円未満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 7.4%	97 89.8%	3 2.8%	108 100.0%
	300万円以上500万円未満	4 4.1%	0 0.0%	4 4.1%	14 14.3%	72 73.5%	4 4.1%	98 100.0%
	500万円以上1000万円未満	0 0.0%	0 0.0%	7 9.6%	25 34.2%	37 50.7%	4 5.5%	73 100.0%
	1000万円以上1500万円未満	0 0.0%	2 5.6%	7 19.4%	8 22.2%	13 36.1%	6 16.7%	36 100.0%
	1500万円以上2000万円未満	0 0.0%	2 5.7%	9 25.7%	10 28.6%	11 31.4%	3 8.6%	35 100.0%
	2000万円以上2500万円未満	0 0.0%	0 0.0%	9 42.9%	3 14.3%	3 14.3%	6 28.6%	21 100.0%
	2500万円以上3000万円未満	0 0.0%	2 16.7%	8 66.7%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	12 100.0%
	3000万円以上3500万円未満	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%	6 100.0%
	3500万円以上4000万円未満	0 0.0%	2 25.0%	3 37.5%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
	4000万円以上4500万円未満	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100.0%
	5000万円以上	3 21.4%	4 28.6%	3 21.4%	1 7.1%	1 7.1%	2 14.3%	14 100.0%
合計	7 1.7%	15 3.6%	53 12.7%	75 18.0%	237 57.0%	29 7.0%	416 100.0%	

することにする。

第9-3表は、現在の貯蓄額とそれが60歳以降の生活をまかなうことができるかどうかをクロス集計した結果である。グレーのセルは各行の比率が大きなものである。この表を見ると、全体として現在の貯蓄額が多くなるほど60歳以降の生活を賄うことができる度合いが高くなることがわかる。高齢期の生活のどれだけを賄うことができるかの評価は、大雑把に言えば、1000万円超で2~3割、2000万円超で半分程度、4千万円超で7~8割程度賄うことができると評価しているようである。いずれにしても、大半の回答者は現在の蓄えでは高齢期の生活を賄うことができないと考えており、その結果が先に見た60歳以降の就業行動の背景につながっているようである。

4 今後の家庭生活についてのまとめ

この章では、回答者が60歳以降の生活をどのようにおくらうとしているのかに関する項目を概観してきた。主なポイントを整理すると次のようになる。

- (1) 回答者は、60歳以降の生活のなかで、「自分の健康」「生活費」「年金のこと」「配偶者の健康」といった点について不安を持っている。特に「生活費」については、3/4の回答者が気がかりであるとしている。
- (2) 60歳以降の生活に必要な金額は1ヵ月25万円から35万円程度と考えている回答者が多く、その費用は「公的年金」「仕事をして得る収入」「貯蓄の取りくずし」などによって賄おうと考えている。しかし、現在の貯蓄額は1000万円以下が6割以上で、60歳以上の生活を賄うことはできないとする家計が多い。